

## 出エジ 41 出エジプト記 29 章 1 節～46 節

### 「祭司の聖別」

#### 1. 文脈の確認

- (1) 幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
- (2) これまでに、幕屋の構造、器具、祭司の衣装について学んだ。
- (3) きょうは、祭司の聖別について学ぶ。
- (4) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。
  - ①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。
  - ②幕屋は、キリストの型である。

#### 2. アウトライン

- (1) 祭司の聖別 (29 : 1～37)
- (2) 絶やすことのない全焼のいけにえ (29 : 38～42)
- (3) 幕屋建設の目的 (29 : 43～46)

#### 3. メッセージのゴール (なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

- (1) 幕屋の中に隠されたキリストを発見する。

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

### I. 祭司の聖別 (1～37 節)

#### 1. 聖別のための準備 (1～9 節)

- (1) 準備するもの
  - ①若い雄牛一頭
  - ②傷のない雄羊二頭
    - \* 神の性質の反映
    - \* 神が人間に期待するもの
  - ③種を入れない3種のもの
    - \* 種を入れないパン (bread)
    - \* 油を混ぜた種を入れない輪型のパン (cakes)
    - \* 油を塗った種を入れないせんべい (wafers)

- (2) アロンとその子らを水で洗う。
- (3) 大祭司アロンに装束を着せる。
  - ①長服、②青服、③エポデ、④胸当て、⑤帯、⑥かぶり物、⑦聖別の記章
- (4) そそぎの油を頭に注ぐ。
  - \*イスラエルの王は油注ぎを受ける。
  - \*カリスマチックな王がメシアである。
  - \*聖霊の力による奉仕を象徴している。
- (4) アロンとその子らに衣装を着せる。
- (5) アロンとその子らは祭司職に任命された。

2. 雄牛のいけにえ (10～14 節) : 罪のためのいけにえ

- (1) アロンとその子らは雄牛の頭に手を置く。
  - ①罪の転嫁が行われる。
- (2) 雄牛をほふる。
  - ①血を取り、指で祭壇の角につける。
  - ②残りの血は、祭壇の土台に注ぐ。
  - ③内臓の脂肪は焼いて煙にする。
  - ④脂肪は最良の部位とされた。
  - ⑤肉と皮と汚物は、宿営の外で焼かれる (汚れたものの象徴)。
  - ⑥「これは、罪のためのいけにえである」(14 節)
    - \*アロンとその子らの罪

3. 最初の雄羊のいけにえ (15～18 節) : 全焼のいけにえ

- (1) アロンとその子らは雄羊の頭に手を置く。
  - ①罪の転嫁が行われる。
  - ②罪は命(血)によって贖われる。
- (2) 雄羊をほふる
  - ①その血を取り、祭壇の回りに注ぎかける。

- ②部分に切り分け、内臓と足を洗い、ほかの部分を一っしょにする。
- ③全部祭壇の上で焼いて煙にする。
- ④神への感謝と、全面的献身を象徴している。

4. 次の雄羊のいけにえ(19～21節)：聖別のためのいけにえ

- (1) アロンとその子らは雄羊の頭に手を置く。

- ①罪の転嫁が行われる。

- (2) 雄羊をほふる。

- ①その血をアロンとその子らにつける。

\*右の耳たぶ

\*右手の親指

\*右足の親指

\*全的献身を表す。

- ②残りの血を祭壇の回りに注ぎかける。

- (3) 聖別のためのいけにえ

- ①祭壇の上にある血と注ぎの油を、祭司たちの装束に振りかける。

- ②祭司とその衣装の聖別となる。

5. 種を入れない3種のもの(22～25節)

- (1) アロンとその子らの手のひらに載せ、【主】に向かって揺り動かす。

- ①種を入れないパン一個

- ②油を混ぜた種を入れない輪型のパン一個

- ③油を塗った種を入れないせんべい一個

- (2) 任職用の雄羊の脂肪とともに祭壇の上で焼いて煙とする。

6. 祭司の取り分(26～28節)

- (1) 任職用の雄羊の胸肉ともも肉

- (2) 祭司がイスラエル人から受け取る永遠の分け前

7. 祭司任命の儀式(29～30節)

- (1) アロンの後継者も同じようにする。

(2) その儀式は7日間続く。

8. 祭司の食事 (31～34 節)

(1) 幕屋の入り口で雄羊の肉を煮る (内庭のことであろう)。

(2) その肉といっしょにかごの中のパンを食べる。

①祭司は、聖別のための贖いに用いられたものを食べる。

②ほかの者は、たべてはならない。

③肉やパンが朝まで残ったなら、それを火で焼く。

(3) 【主】との親密な交わりを象徴する。

9. 聖別は7日間 (35～37 節)

(1) 任職式は7日間続く。

(2) 雄牛一頭を毎日ささげる。

II. 絶やすことのない全焼のいけにえ (38～42 節)

1. 祭司の5つの務め

(1) 香をたく (30 : 7～8)

(2) 毎日いけにえをささげる (29 : 38～42)

①火は24時間燃え続けている (レビ 6 : 13)。

(3) いけにえの検査 (レビ 27 : 11～12)

①イエスの時代にはこれが悪用された。

(4) 燭台に火をともし続ける (レビ 24 : 1～4)。

(5) モーセの律法を教え、裁判官となる (申 17 : 8～13、19 : 15～20、21 : 5)。

2. 毎日ささげる全焼のいけにえ

- (1) 1歳の若い雄羊2頭
  - ①1頭の若い雄羊は朝ささげる。
  - ②他の1頭の若い雄羊は夕暮れにささげる。
  
- (2) これに添えるもの
  - ①上質のオリーブ油を混ぜた最良の小麦粉
  - ②ぶどう酒
  
- (3) 絶やすことのない全焼のいけにえ
  - ①祭司は、毎日これを行う。

### Ⅲ. 幕屋建設の目的 (43～46 節)

1. その所でわたしはイスラエル人に会う。
2. わたしはイスラエル人の間に住み、彼らの神となろう。
3. 彼らは、わたしが彼らの神、【主】であり、彼らの間に住むために、彼らをエジプトの地から連れ出した者であることを知るようになる。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

#### 1. 雄牛とキリストの対比

##### (1) 出 29 : 14

「ただし、その雄牛の肉と皮と汚物とは、宿営の外で火で焼かなければならない。これは罪のためのいけにえである」

##### (2) ヘブル 13 : 11～14

「動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都

を求めているのです」

## 2. 祭司の務めとキリストの務めの対比

### (1) ヘブ 10 : 11~14

「また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、それから、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです」

### (2) 対比

- ①祭司は死ぬとその務めが継承されるが、キリストは復活されたのでそれがない。
- ②祭司は、毎日立って務めをするが、キリストは神の右の座に着いておられる。
- ③祭司は、同じいけにえを繰り返しささげるが、キリストは一度だけささげた。
- ④祭司のいけにえは、罪を除き去ることができないが、キリストのいけにえはそれをなした。

## 3. 幕屋とキリストの対比

### (1) 幕屋はシャカイナグローリーが表れた場所

- ①神はイスラエルの民の間に住まわれた。
- ②イスラエルの民は、神を知った。
- ③出エジプトの体験は、神を知るためのものである。

### (2) ヨハ 1 : 18

「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」

#### ①マタ 1:23

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である）。

#### ②ヨハ 14:9

「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか」